

令和
7年度

埼玉県推奨図書



中学生向け

■埼玉県では、青少年のみなさんに
読んでほしい図書を薦めています■

17シーズン 巡るふたりの五七五



百舌涼一／著
講談社

五・七・五の音数に導かれる世界に強く影響を受けた主人公の音々は句会を通して、自分の心を表現し、それを通していくことに惹かれていく。俳句と出会った少女の心溢れる感性豊かな物語。

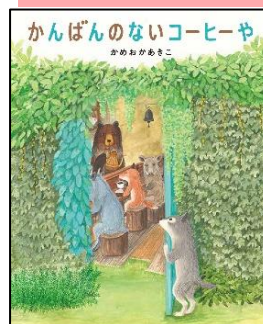
はなしをきいて 決戦のスピーチコンテスト



マギー・ホーン／著
三辺律子／訳
理論社

自分の気持ちに声をあげる勇気をもてなかった時に、人はきっかけ一つで大きく変わる一理不尽なこと、不安なこと、心配なこと全てを、このスピーチに込めて魂の叫びをエネルギーに描き切った物語。

かんぱんのない コーヒーや



かめおかあきこ／作
ほるぷ出版

古本と一緒に珈琲を楽しめるお店を開いていたオオカミくん。ある日、いい匂いのする“かんぱんのない”コーヒーやさんに入り、マスターのクマに出会う。そこからオオカミくんの美味しいコーヒーを入れるための“頑張り”が始まる。

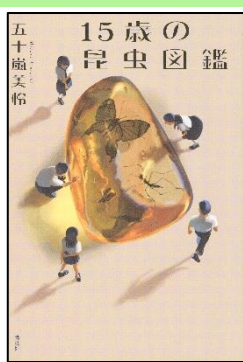
光の粒が舞いあがる



蒼沼洋人／著
PHP研究所

人は誰かと出会ったり、憧れたりすることで勇気をもらったり、自分と向き合ったりすることの大切さを教えてもらえる。ボクシングを通して二人の少女が自分とは何者なのかを見つけ、爽快到過す青春物語。

15歳の昆虫図鑑

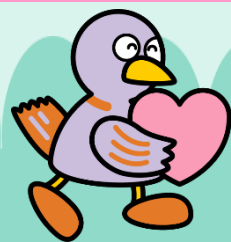


五十嵐美鈴／著
ゲレンデ／装画
柏大輔／挿画
講談社

昆虫好きの転校生が様々な悩みを抱えたクラスメイトと関わっていく中で、昆虫もその多様性の中で生き抜いていることを教えていく。自分らしく生きることの大切さを温もりのある文で伝えてくれる。

自分のやりたい!好き!の後押しをしてくれるストーリーで、ありのままの私でいいと思えました。主人公の虫オタクの女の子が登場人物の悩みを虫の世界と交えて解決へ導くお話で、虫の「エラー」をその生き物の「個性」と表現してくれるので、自分は周りとはどこが違うかと思っていたところが、それは個性なんだと気付かせてくれます。また、物語の中心となる虫をもっと詳しく知れたり、虫が嫌いな人も虫の生命力のすごさに驚かされると思います。

越谷市立千間台中学校
2年生



埼玉県マスコット
「コバトン」

問合せ先：埼玉県 県民生活部 青少年課

✉ a2905-01@pref.saitama.lg.jp

☎ 048-830-2907

図書一覧はこちら

